【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科・福祉心理学科】

科目名		ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
相談援助演習Ⅳ			選択	2	3	後期
担当教員		研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
田村 正人 他		B308	masato.tamura		水曜日 12:10~13:00	
授業の目的・概要		<p><目的> ソーシャルワークの価値・知識・技術、および倫理に基づいた相談援助の実践力を、演習を通して具体的な課題に能動的に取り組みソーシャルワークの展開過程を理解し、習得することを目的とする。</p> <p><概要> 教科書や資料を使用して、グループワーク、ロールプレイ、ディスカッション等を行い、相談援助の実践の体験をして感じたこと、考えたことを言語化、文章化し、発表することを通じて、ソーシャルワークの展開過程を理解し、実践する能力を習得できるように授業を進める。</p>				
授業形式・方法		☒ 対面授業 ☐ 遠隔授業(双方向型) ☐ 遠隔授業(自主学習)	☐ 講義 ☐ 実習	☒ 演習 ☐ 実技	☐ PBL ☐ 反転授業 ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ その他 ()	☒ ディスカッション・レポート ☐ 実習・フィールドワーク
学習上の助言		本講ではソーシャルワークの価値を身につけるための援助技術を習得する目的から、その基盤となるソーシャルワークのグローバル定義、ソーシャルワークの定義(ソーシャルワーカー連盟)、パイステックの7原則などを復習しておくことが望ましい。				
教科書		社会福祉士 相談援助演習 第2版/監修：一般社団法人日本社会福祉士養成校協会/中央法規出版				
参考書		指定参考図書なし				
外部教材		なし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針		
①	ケースワーク、グループワーク、コミュニティワークの支援技術を習得できる。			HSU(3)(4)、WP(1)(2)		
②	事例を通じて基礎基盤となる価値・知識・技術・原則を学ぶことができる。			HSU(1)(2)、WP(1)(2)(6)		
③	支援の開始から終結の相談援助プロセスを理解し、多職種連携の必要性を身につける。			HSU(2)(3)(4)、WP(1)(2)(6)		
④						
⑤						
⑥						
授 業 計 画						
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)			
1	オリエンテーション(本科目の意義、受講時の約束、講義の進め方、成績評価他)を行う。演習・グループワークの効果的学習方法について説明を行う。	演習	シラバスを精読してくる。		4	
2	病院からの退院に関する相談援助を学習する①	演習 グループワーク	教科書第5章27を精読する。		4	
3	病院からの退院に関する相談援助を学習する②	演習 グループワーク	教科書第5章27を精読する。		4	
4	高齢者虐待への相談援助を学習する①	演習 グループワーク	教科書第5章29を精読する。		4	
5	高齢者虐待への相談援助を学習する②	演習 グループワーク	教科書第5章29を精読する。		4	
6	児童虐待への相談援助を学習する①	演習 グループワーク	教科書第5章30を精読する。		4	
7	児童虐待への相談援助を学習する②	演習 グループワーク	教科書第5章30を精読する。		4	
8	これまでの具体的な演習場面において、グループで検討し、ソーシャルワークのプロセスを振り返る	演習 ディスカッション	教科書第5章27、29、30を復習する。		4	
9	低所得者への相談援助を学習する①	演習 グループワーク	教科書第6章34を精読する。		4	
10	低所得者への相談援助を学習する②	演習 グループワーク	教科書第6章34を精読する。		4	
11	ホームレスへの相談援助を学習する①	演習 グループワーク	教科書第6章35を精読する。		4	
12	ホームレスへの相談援助を学習する②	演習 グループワーク	教科書第6章35を精読する。		4	
13	高齢者(要介護)とその家族への相談援助を学習する①	演習 グループワーク	教科書第6章37を精読する。		4	
14	高齢者(要介護)とその家族への相談援助を学習する②	演習 グループワーク	教科書第6章37を精読する。		4	
15	これまでの具体的な演習場面において、グループで検討し、ソーシャルワークのプロセスを振り返る	演習 ディスカッション	教科書第6章34、35、37を復習する。		4	
試	定期試験 達成度計画・評価のポイントを参照					

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科・福祉心理学科】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		0	30	20	0	50	100
総合力指標	知識・技術力	0	10	0	0	5	15
	思考・推論・創造する力	0	10	0	0	5	15
	協調性・リーダーシップ	0	0	5	0	10	15
	発表・表現伝達する力	0	10	5	0	5	20
	コミュニケーション力	0	0	5	0	10	15
	取組みの姿勢・意欲	0	0	5	0	10	15
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	5	5
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	レポートは、1回～7回の授業内容、8回～15回目の授業内容について、それぞれ課題の提出を求める。計2回のレポートをもとに、授業で学んだ内容を踏まえて、深めることができているかという観点から評価する。レポートは Teams にて提出をする。				採点をして Teams にて返却する。
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①	✓	グループワークにおいて成果発表を実施するが、発表者のみならず他のメンバーにおいてもそれぞれのグループ内での役割を自覚し、グループワークの進捗に積極的に参加できているかを総合的に評価する。				成果発表後に、どのような理解をしたのか教員から他のメンバーにも質問をする。
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	授業終了後にリアクションペーパーを Teams にて提出する。課題への取組み状況やグループワークへの参加姿勢などを評価する。				質問については、授業にて共有する。
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	梅沢 佳裕						
教員の実務経験	梅沢佳裕(社会福祉士の実務経験3年) 田村正人(社会福祉士の実務経験10年)						
実践的授業の内容	教科書とシラバスに沿って、教員が実践してきた事例(個人、団体等の特定ができないよう加工)を用いたりして、ソーシャルワークの基本及び展開過程について、分かりやすく説明をすることで、学生が科目内容について具体的なイメージをもって理解が深まるように工夫をして授業を進める。						
そ の 他	<p>【履修についての条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士国家試験受験希望者は必ず履修すること。 <p>【受講する際の注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業計画」の事前事後の学習では、他の科目との関連項目についても意識して取り組んでもらい、幅広い視野からソーシャルワークの素養を深めるように指導する。 ・本科目は登校型授業であるため、大学が示した感染症予防対策の指針を遵守すること。また感染症予防対策の観点から、教員の指示に従わない行動をとった場合には受講を認めないことがある。その場合、授業は欠席として取り扱う ・今後の新型コロナウイルス感染症の社会情勢によって、再度シラバスの変更が行われることがある。 						